

国際石油開発帝石株式会社  
**2019年3月期  
決算説明会**

2019年5月14日



- 事業活動報告
- 中期経営計画 2018-2022 の進捗、今期見通し
- 2019年3月期 決算説明
- 2019年12月期 業績予想

当プレゼンテーションは、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでおります。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しております。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のもが含まれますが、これらに限られるものではありません。

- 原油および天然ガスの価格変動及び需要の変化
- 為替レートの変動
- 探鉱・開発・生産に関連するコストまたはその他の支出の変化

当プレゼンテーションに掲載される情報(将来予想に関する情報を含む)を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

# 事業活動報告

---

代表取締役社長  
上田 隆之

# 2019年3月期 決算説明会 ハイライト



決算	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <u>決算:2019年3月期(2018年4月～2019年3月)</u><ul style="list-style-type: none"><li>• 連結売上高 9,713億円(前期比4.0%増)</li><li>• 親会社株主に帰属する純利益 961億円(前期比138.1%増)</li></ul></li></ul>
業績予想	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <u>業績予想:2019年12月期(2019年4月～2019年12月:9ヶ月決算*)</u><ul style="list-style-type: none"><li>• 連結売上高 9,580億円</li><li>• 親会社株主に帰属する純利益 900億円</li></ul></li></ul> <p>*決算期の変更により、経過期間となる2019年12月期は、2019年4月から12月までの9ヶ月間の変則決算を予定。参考データ集P.1ご参照</p>
1株当たり 配当金	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <u>2019年3月期</u><ul style="list-style-type: none"><li>• 年間:24円(中間:9円、期末:15円(普通配当9円、記念配当6円))</li></ul></li><li>■ <u>2019年12月期(9ヶ月決算)(予想)</u><ul style="list-style-type: none"><li>• 年間:24円(中間:12円、期末:12円)</li></ul></li></ul>
プロジェクト ハイライト	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <u>イクシスLNGプロジェクト</u><ul style="list-style-type: none"><li>• 着実な生産ランプアップが進行中。また、2019年4月末までに累計41LNGカーゴをダーウィンから出荷済み</li></ul></li><li>■ <u>アバディLNGプロジェクト</u><ul style="list-style-type: none"><li>• 改定開発計画の提出に向けた協議を継続中</li></ul></li><li>■ <u>アブダビ油田プロジェクト</u><ul style="list-style-type: none"><li>• 既存油田の生産能力増強に向け開発作業が進行中。また、新規探鉱区も取得</li></ul></li></ul>
確認埋蔵量	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 2019年3月期実績 約40.1億バレル(原油換算)(前期比4.0%増)</li></ul>
ネット生産量	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 2019年3月期実績 日量約42.4万バレル(原油換算)(前期比5.7%減)</li></ul>

# 2019年3月期事業活動 ハイライト



## 石油・天然ガス上流事業の持続的拡大

- アラブ首長国連邦アブダビ 下部ザクム油田のアセットリーダーへの任命(4月)
- オーストラリア イクシスLNGプロジェクト 沖合生産・処理施設(CPF)における生産開始に向けた準備作業の完了(5月)
- オーストラリア イクシスLNGプロジェクト 生産開始(7月)
- カナダ ジョスリンオイルサンドプロジェクトの権益売却(9月)
- オーストラリア イクシスLNGプロジェクト コンデンセートの出荷開始(10月)
- オーストラリア イクシスLNGプロジェクト LNGの出荷開始(10月)
- オーストラリア イクシスLNGプロジェクト 参加権益の追加取得(12月)
- オーストラリア プレリユードFLNGプロジェクト生産開始(12月)
- ノルウェー 2018年APAラウンドにおける探鉱区2件の落札(1月)
- 米国 テキサス州におけるシェールオイル生産・開発権益の取得(3月)
- アラブ首長国連邦アブダビ 2018探鉱区公開ラウンドにおける探鉱区(Onshore Block 4)の落札(3月)
- アゼルバイジャン共和国 カスピ海ACG鉱区における追加開発の最終投資決定(4月)

## グローバルガスバリューチェーンの構築

- イクシスLNGプロジェクトから直江津LNG基地へのLNG第一船入港(10月)
- アラブ首長国連邦 ADNOCロジスティクス&サービス社とのLNGバンカリング・パートナーシップに関する覚書の締結(12月)
- イクシスLNGプロジェクトから直江津LNG基地への「Oceanic Breeze(オセアニック・ブリーズ)」入港(2月)

## 再生可能エネルギーの取り組みの強化

- インドネシア サルーラ地熱IPP事業 第3号機の商業運転開始(5月)
- 再生可能エネルギー・電力事業本部の新設(組織改編)(5月)
- 秋田県湯沢市小安地域での地熱発電所建設へ向けた環境アセスメントの開始(12月)

# イクシスLNGプロジェクト 生産開始後の状況

## ■ 生産量(権益100%): 日量約25万バレル\*

➤ 上流ガス\*\*: 日量約1,100百万立方フィート

➤ 上流コンデンセート: 日量約4万バレル

\*2019年1月～3月平均日量、上流ガスと上流コンデンセートの合計値(BOE/D)

\*\*井戸元の生産量ではなく下流事業体への販売に対応した数量(LNG・LPG・プラントコンデンセートの原料として上流から陸上プラントに送られるガス量)

## ■ ランプアップ状況・見通し

➤ 想定通りLNG生産開始から2～3年程度でプラトー到達の見込み

## ■ 出荷LNGカーゴ数

➤ 41LNGカーゴ (昨年10月の初出荷時から2019年4月末までの累計)

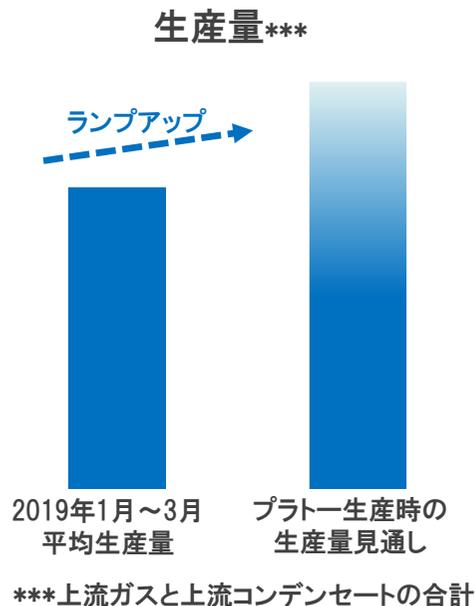
➤ 今期は、月平均7～8LNGカーゴの出荷を見込む

➤ ピーク生産時は年間120LNGカーゴ程度を見込む

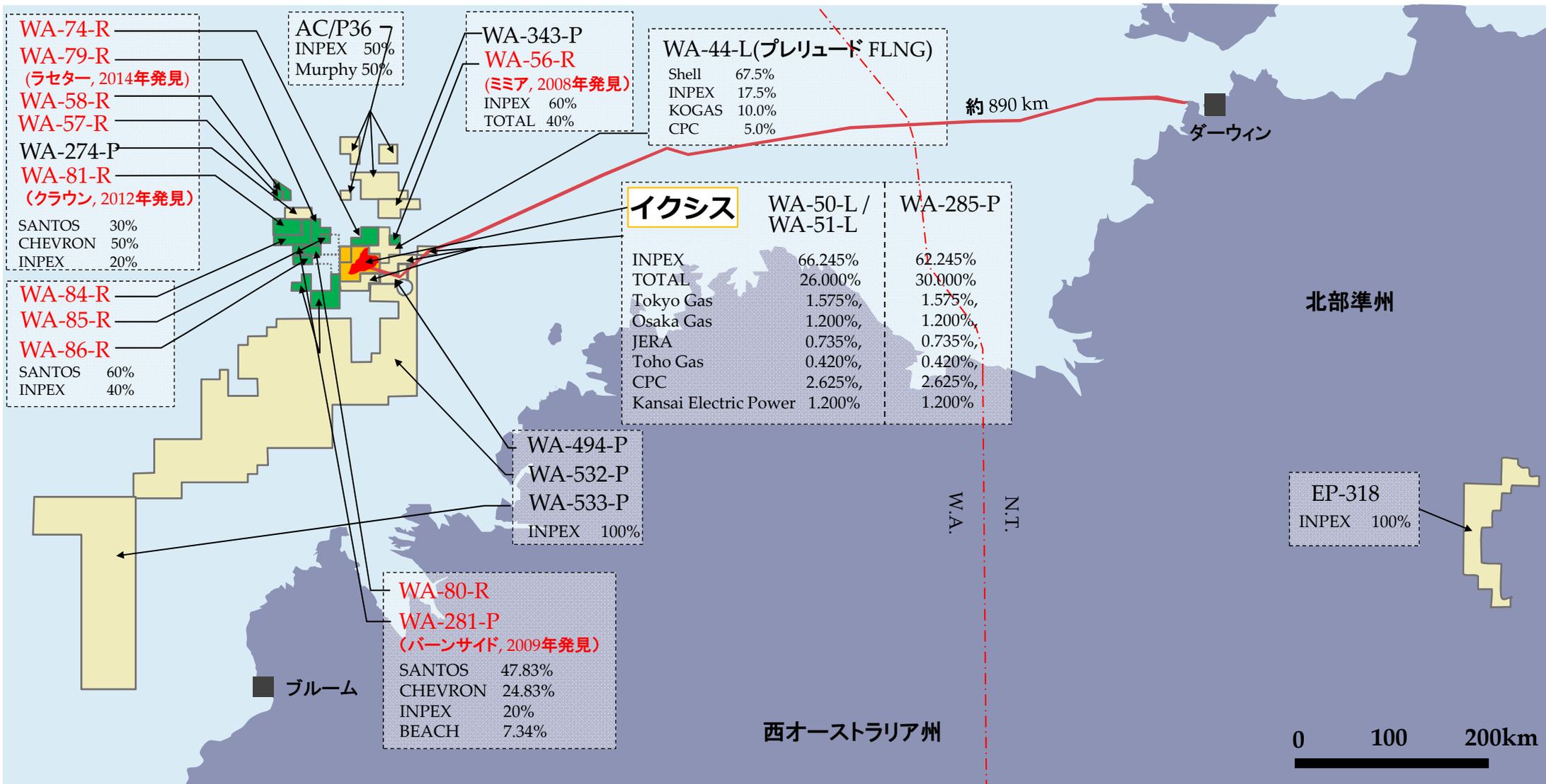
## ■ 生産井の掘削状況・見通し

➤ 16坑の掘削作業・仕上げ作業を完了

➤ 引き続き、掘削作業を継続中(合計50坑程度を掘削予定)



# イクシスLNGプロジェクト 周辺探鉱鉦区



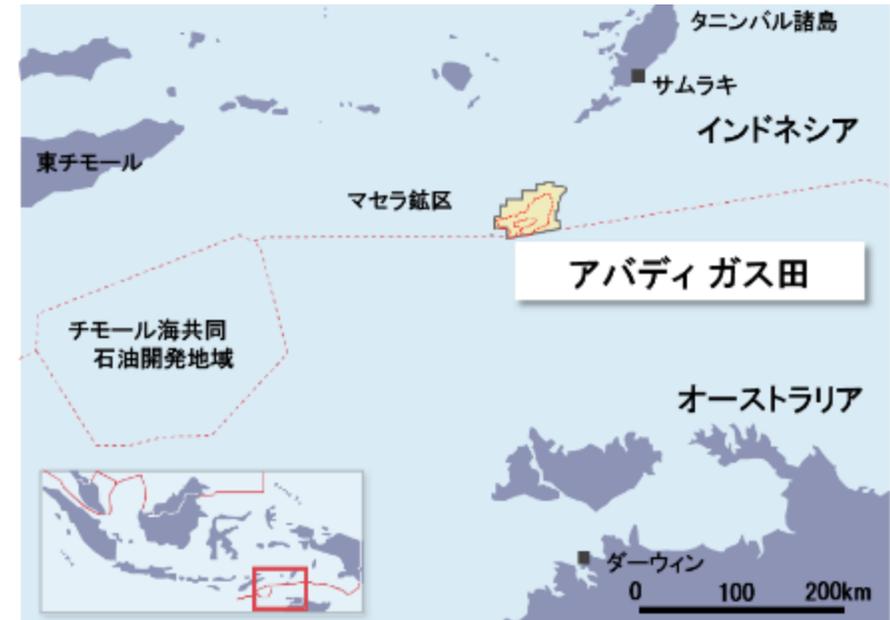
- イクシスフィールド周辺には18の探鉱鉦区を保有。これまでに、クラウン、ラセター、ミミア、バーンサイド等のガス構造を発見し、これらのガス構造は少なくとも11鉦区に亘る
- 従前よりダーウィンに複数の追加トレインが建設可能な用地確保済

# アバディLNGプロジェクト

INPEX

## ■ 現況

- 2018年3月から10月に年産950万トン規模を想定する陸上LNGのPre-FEED（概念設計）作業を実施
- 現在、Pre-FEED作業の結果等を踏まえて、インドネシア政府と改定開発計画について協議中
- 2020年代後半の生産開始を目指す
- イクシスで獲得した知見・経験を活かした効率的な開発を推進
- 2017年6月にインドネシア政府からNational Strategic Projectに、同年9月にはPriority Infrastructure Projectに認定



# 上流事業のトピックス (生産・開発プロジェクト)

**INPEX**

## カシャガン油田(生産中:カザフスタン)



- 進捗
  - 日量34万バレルの水準で生産中
  - 日量37万バレル早期達成に向け作業中

## ACG油田(生産中:アゼルバイジャン)



- 進捗
  - 2019年4月、新プラットフォーム追加開発計画の最終投資決定

## プレリユードFLNGプロジェクト(生産中:オーストラリア)



- 進捗
  - 2018年12月、生産井からのガス生産開始
  - 2019年3月、コンデンセートの出荷開始
  - 今後LNG出荷開始予定

### ■ 生産量(予定)

- LNG:年間360万トン、LPG:年間約40万トン(ピーク時)、コンデンセート:日量約3.6万バレル(ピーク時)

## シェールオイル開発・生産事業(生産・開発中:米国)



- 進捗
  - テキサス州イーグルフォードシェールにおいてGulfTex Energy社が保有・操業する複数のシェールオイル生産・開発権益を取得

### ■ 生産量(予定)

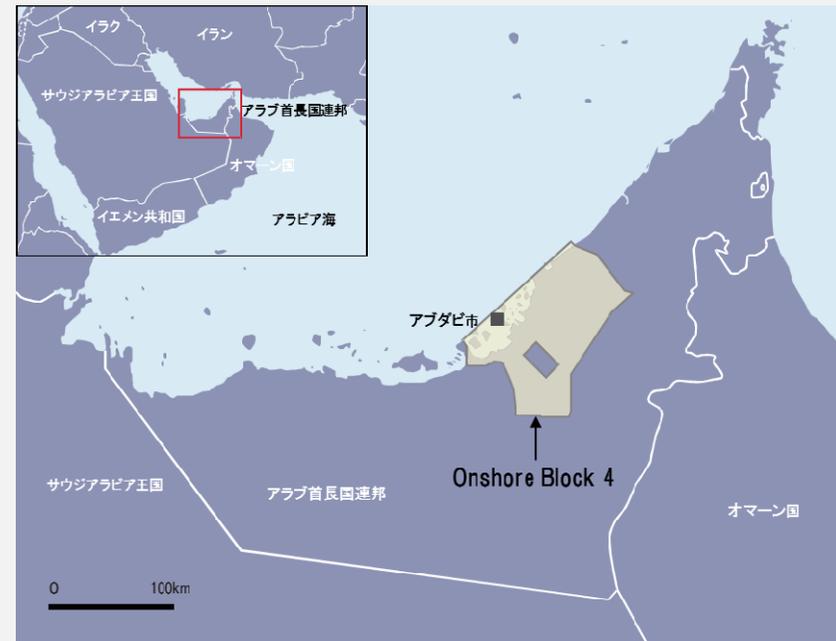
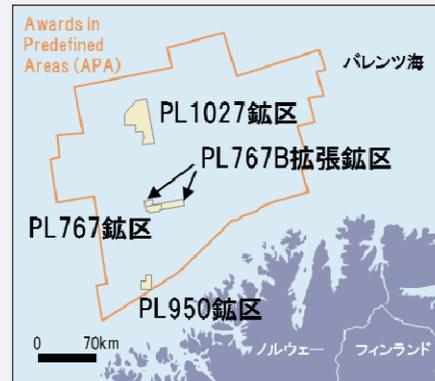
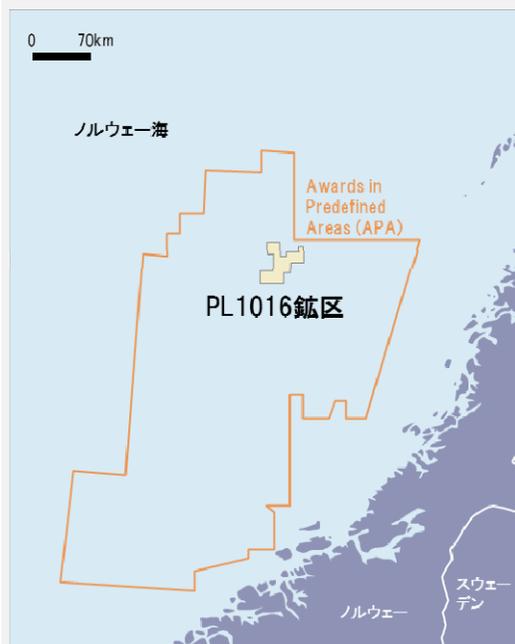
- 日量約1.7万バレル(ピーク時)

# 上流事業のトピックス (探鉱プロジェクト)

**INPEX**

バレンツ海西部PL1027鉱区  
ノルウェー海北部PL1016鉱区  
(探鉱中:ノルウェー)

Onshore Block 4  
(探鉱中:アラブ首長国連邦アブダビ)



- PL1027鉱区
  - 2019年1月、本鉱区を落札
  - 当社権益:20% (オペレーター:Lundin)
- PL1016鉱区
  - 2019年1月、本鉱区を落札
  - 当社権益:40% (オペレーター:OMV)
- 当社がノルウェー領バレンツ海で保有する鉱区数は  
PL767鉱区・PL950鉱区と合わせ4鉱区

- Onshore Block 4
  - アブダビ国営石油会社(ADNOC)が2018年に実施した、アブダビで初めて開催された探鉱鉱区公開ラウンドにおいて、2019年3月にオペレーターとして単独で本鉱区を落札
  - 当社権益:100% (オペレーター:当社)
- 既存のアブダビ海上油田及びアブダビ陸上鉱区
  - 各油田の生産能力増強に向け、開発作業が進行中

# 国内天然ガス事業及び 再生可能エネルギーへの取り組み

INPEX

## 国内天然ガス事業



- 天然ガス販売
  - 2019年3月期販売量:21.7億m<sup>3</sup>\*
  - 2019年12月期(9ヶ月決算)販売量見通し:15.9億m<sup>3</sup>\*
- 直江津LNG基地
  - 2018年10月、イクシスの第1船(パシフィック・ブリーズ)が入港
  - 2019年2月、イクシスからオセアニック・ブリーズが初入港

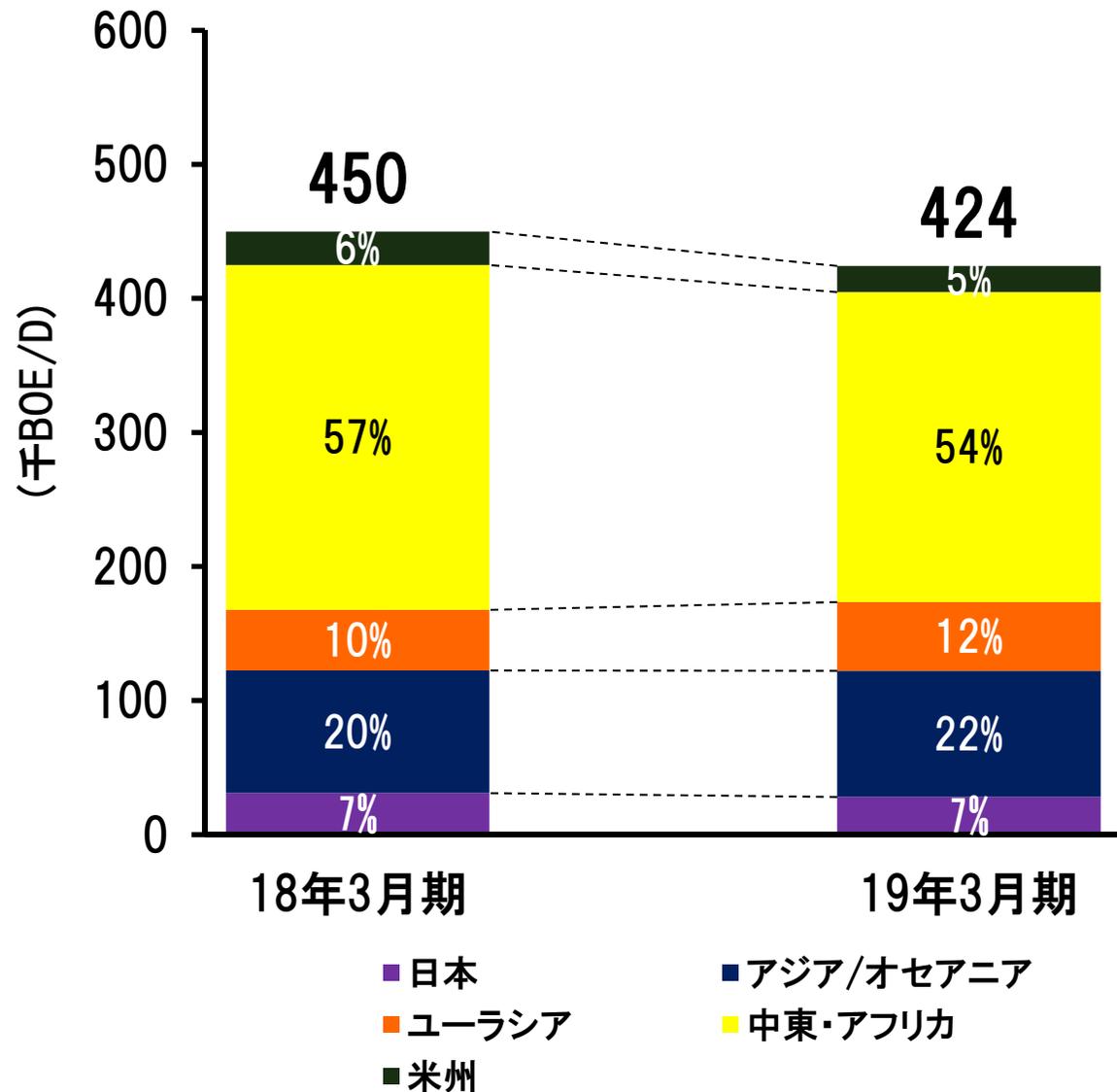
\* 1m<sup>3</sup>当たり41.8605MJ換算

## 再生可能エネルギー事業



- 2018年6月に再生可能エネルギー・電力事業本部を新設
- インドネシア サルーラ地熱IPP事業
  - 2018年5月から総出力約 330MWで商業運転中
- 国内地熱事業
  - 秋田県湯沢市小安地域での地熱発電所建設へ向けた環境アセスメントの開始

# 2019年3月期 ネット生産量\*

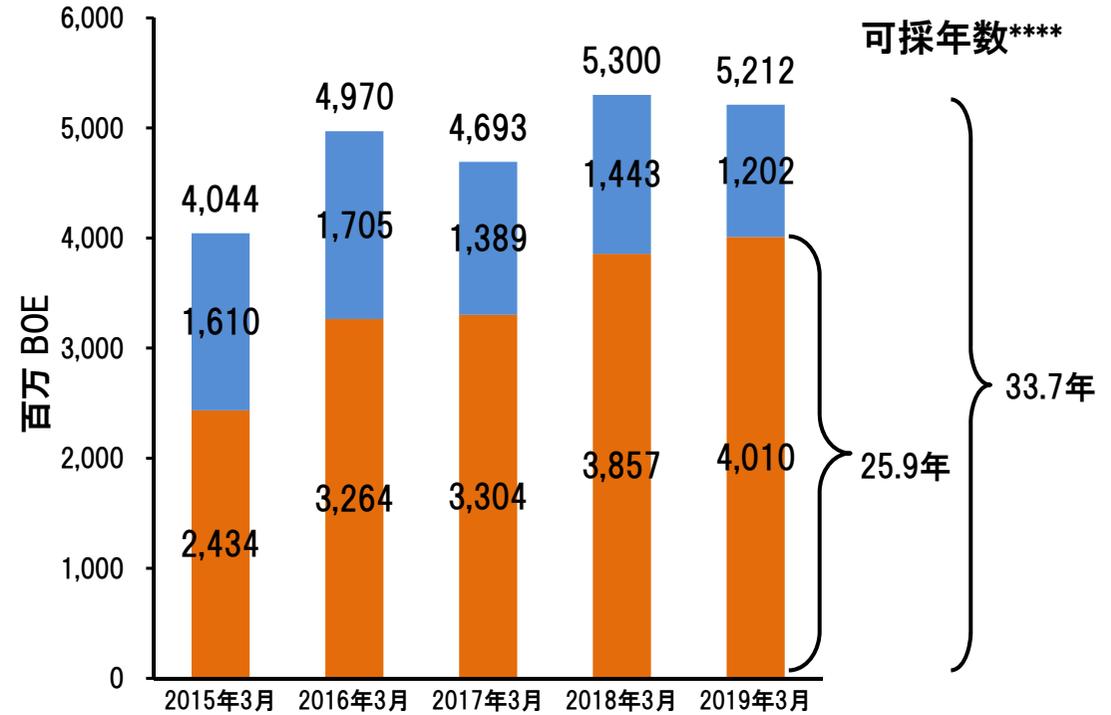
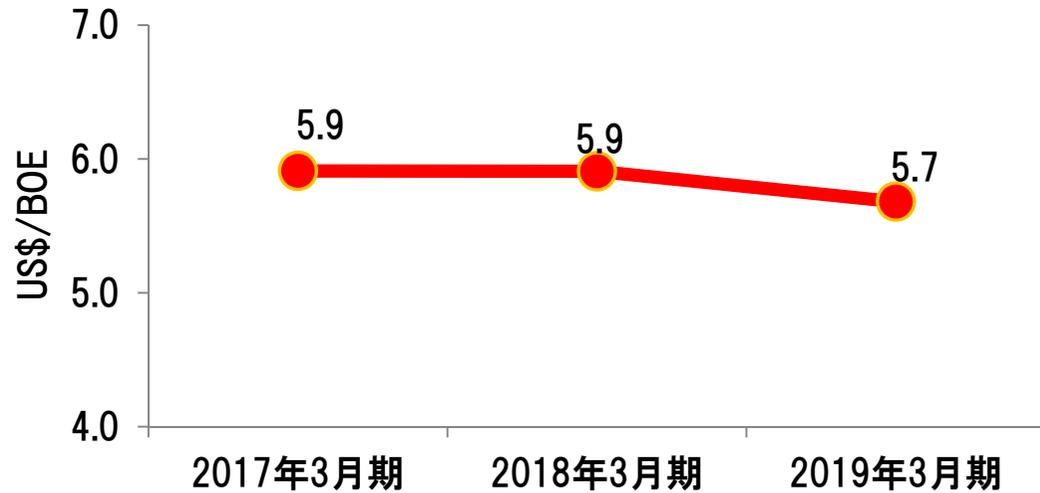


- 主な増加要因**
- イクシスプロジェクト生産開始
  - カシャガン油田の生産ランプアップ
- 主な減少要因**
- マハカム沖鉦区権益期限満了

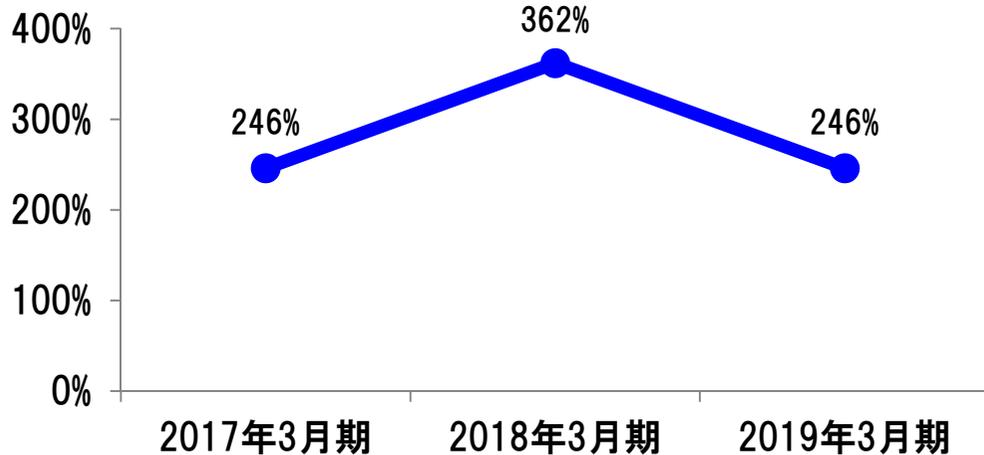
\* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。

# 生産コスト、生産量・埋蔵量指標、埋蔵量の推移 **INPEX**

原油換算1バレル当たりの生産コスト(ロイヤリティ除く)



リザーブリプレースメントレシオ(3年平均)\*\*\*\*\*



■ 確認埋蔵量 \*\*    ■ 推定埋蔵量 \*\*\*

\* 埋蔵量は、持分法適用関連会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer & MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値です。なお、本資料における2019年3月期の埋蔵量は暫定値となっております。

\*\* 確認埋蔵量は、米国証券取引委員会(SEC) 規則に従い評価・算定しています。確率論的手法を用いて確認埋蔵量を算定する場合には、確認埋蔵量(1P)を回収できる確率が90%以上であることが必要とされています。

\*\*\* 推定埋蔵量は、石油技術者協会(SPE)などが策定した基準であるPetroleum Resources Management System(PRMS)に従い、評価・算定しています。確率論的手法を用いて推定埋蔵量を算定する場合には、確認埋蔵量と推定埋蔵量を合計した数量(2P)を回収できる確率が50%以上であることが必要とされています。推定埋蔵量の全量が確認埋蔵量と同様な確実性をもって開発・生産されると見込まれるわけではありません。

\*\*\*\* 可採年数=2019年3月末「確認埋蔵量」または「確認埋蔵量+推定埋蔵量」/2019年3月期生産量実績

\*\*\*\*\* リザーブリプレースメントレシオ=期中の確認埋蔵量増加分/期中生産量

**中期経営計画 2018-2022 の進捗、今期見通し**

---

**代表取締役社長  
上田 隆之**

# 中期経営計画 2018-2022 の進捗 及び今期見通し①



- 2019年3月期は、イクシスの生産及び出荷開始等、重要なマイルストーンの達成を着実に積み上げ、中期経営計画に掲げる目標達成に向けて順調に進捗。
- 2019年12月期も、イクシスの迅速かつ着実なランプアップをはじめとして、マイルストーンの着実な達成を目指す。

	2019年3月期の実績(中期経営計画1年目) 2018年4月～2019年3月	2019年12月期の取組み・見通し(中期経営計画2年目) 2019年4月～2019年12月:9ヶ月決算
石油・天然ガス 上流事業 の持続的拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ イクシス:生産及び出荷開始を達成。好調な立ち上がり</li> <li>■ アバディ:Pre-FEED作業が終了</li> <li>■ アブダビ:下部ザクム油田のアセットリーダーへ任命</li> <li>■ プレリユード:生産開始を達成</li> <li>■ 長期的な成長ドライバーの追求:ノルウェー探鉱区取得、米国テキサス州シェールオイル生産・開発権益取得等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ イクシス:迅速かつ着実なランプアップ</li> <li>■ アバディ:早期FIDに向けた取組みを実施</li> <li>■ アブダビ:生産能力の増強に向けた作業を継続</li> <li>■ ACG油田:追加開発に係る最終投資決定</li> <li>■ 探鉱活動:アブダビ、イラク、ノルウェー、メキシコ湾等における探鉱活動の推進と優先探鉱エリアにおけるスタディの継続</li> </ul>
グローバルガス バリューチェーン の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内:天然ガス販売量21.7億m3</li> <li>■ 海外:アバディのFIDのためのマーケティング、天然ガス需要創出のための事業具体化に向けた取組みを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内:天然ガス販売量見通し15.9億m3</li> <li>■ 海外:アバディのFIDのためのマーケティング、天然ガス需要創出のための事業具体化に向けた取組みを継続</li> </ul>
再生可能 エネルギーの 取組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ インドネシア サルーラ地熱IPP事業 第3号機の商業運転開始</li> <li>■ 国内の風力発電事業への参入に向けて検討中</li> <li>■ 再生可能エネルギー・電力事業本部の新設(組織改編)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地熱発電事業の推進、風力発電事業への積極的な参入</li> <li>■ 再生可能エネルギー関連技術の研究・開発の強化</li> </ul>

# 中期経営計画 2018-2022 の進捗 及び今期見通し②



- 2019年3月期は、油価高やイクシスの貢献開始等により、前期比増収増益。2019年12月期も、中期経営計画に掲げる定量目標に向けて、着実な成長を目指す。
- 株主還元について、2019年3月期の1株当たりの期末配当金は、普通配当9円に、イクシスの生産及び出荷開始達成による記念配当6円を加えた15円とし、中間配当金9円と合わせて、年間配当金は1株当たり24円となる予定。2019年12月期の1株当たりの年間配当金(予想)は24円を予定。

	2019年3月期の実績 (中期経営計画1年目) 2018年4月～2019年3月	2019年12月期の取組み・見通し (中期経営計画2年目) 2019年4月～2019年12月:9ヶ月決算	2022年12月期の目標 (中期経営計画最終年度)
原油油価・為替前提	70.86ドル・110.93円/ドル	65ドル・110円/ドル	60ドル・110円/ドル
成長投資	4,884億円	2,850億円(9ヶ月決算)	1兆7,000億円 (5年間累計ガイダンス)
売上	9,713億円	9,580億円(9ヶ月決算)	1兆3,000億円程度
親会社株主に帰属する 当期純利益	961億円	900億円(9ヶ月決算)	1,500億円程度
ネット生産量	42.4万BOE/D	57.7万BOE/D	70万BOE/D
株主還元	1株あたり配当金24円 (中間9円+ 期末15円(普通配当9円、記念配当6円))  配当性向36.5%	1株あたり配当金24円 (中間12円+期末12円)  配当性向38.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1株24円を下回らないよう安定的に配当を実施</li> <li>■ 業績の成長に応じて段階的に一株当たり配当金を引き上げて、株主還元を強化</li> <li>■ 配当性向30%以上</li> </ul>

---

# 2019年3月期 決算説明

---

**取締役**

**専務執行役員**

**財務・経理本部長 村山昌博**

# 2019年3月期 決算ハイライト



	18年3月期	19年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	9,337	9,713	376	4.0%
原油売上高	7,102	7,826	724	10.2%
天然ガス売上高(LPG含む)	2,081	1,707	△ 373	△ 18.0%
その他	153	179	26	17.4%
営業利益 (億円)	3,573	4,742	1,169	32.7%
経常利益 (億円)	3,872	5,192	1,320	34.1%
親会社株主に帰属する 純利益 (億円)	403	961	557	138.1%
1株当たり純利益 (円)	27.64	65.81	38.17	138.1%

期中平均株式数(連結)2019年3月期 1,460,260,300株

期中平均油価(Brent) (\$/bbl)	57.85	70.86	13.01	22.5%
期中平均為替 (¥/\$)	110.86	110.93	0円07銭円安	0.1%円安

# 原油売上高

	18年3月期	19年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	7,102	7,826	724	10.2%

販売量 (千bbl)	112,882	100,503	△ 12,379	△ 11.0%
海外平均単価 (\$/bbl)	56.30	70.30	14.00	24.9%
国内平均単価 (¥/kl)	42,143	51,667	9,524	22.6%
平均為替 (¥/\$)	111.35	110.73	0円62銭円高	0.6%円高

地域別販売量 (千bbl)	18年3月期	19年3月期	増減	増減率
日本	940 (149.5千kl)	789 (125.4千kl)	△ 151 (△24.1千kl)	△ 16.1%
アジア・オセアニア	6,554	5,621	△ 932	△ 14.2%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	13,266	15,115	1,849	13.9%
中東・アフリカ	90,412	78,048	△ 12,364	△ 13.7%
米州	1,710	930	△ 780	△ 45.6%
合計	112,882	100,503	△ 12,379	△ 11.0%

# 天然ガス売上高(LPG除く)



	18年3月期	19年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	2,020	1,692	△ 328	△ 16.3%

販売量 (百万cf)	264,816	232,851	△ 31,965	△ 12.1%
海外生産分平均単価 (\$/千cf)	5.04	3.18	△ 1.86	△ 36.9%
国内分平均単価 (¥/m <sup>3</sup> )	46.36	53.46	7.10	15.3%
平均為替 (¥/\$)	110.70	110.21	0円49銭円高	0.4%円高

地域別販売量 (百万cf)	18年3月期	19年3月期	増減	増減率
日本	79,243 (2,123百万m <sup>3</sup> *)	80,930 (2,169百万m <sup>3</sup> *)	1,687 (+45百万m <sup>3</sup> *)	2.1%
アジア・オセアニア	137,371	106,703	△ 30,668	△ 22.3%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	7,808	9,996	2,188	28.0%
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	40,394	35,223	△ 5,171	△ 12.8%
合計	264,816	232,851	△ 31,965	△ 12.1%

※ LPGの売上高は以下の通り。

	18年3月期	19年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	60	15	△ 45	△ 75.1%

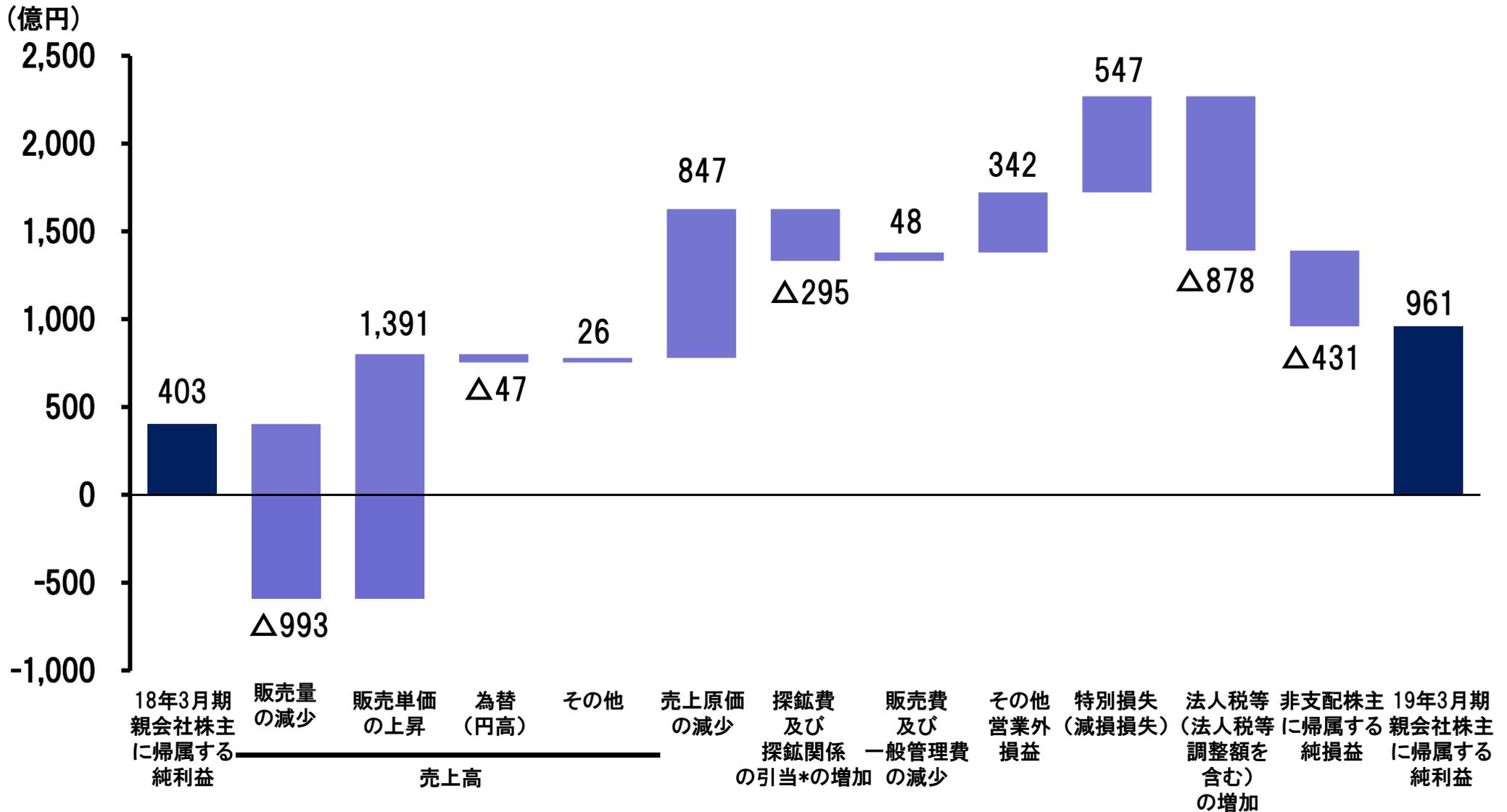
\*1m<sup>3</sup>当たり41.8605MJ

# 損益計算書

**INPEX**

(億円)	18年3月期	19年3月期	増減	増減率	
売上高	9,337	9,713	376	4.0%	販売量の減少 $\Delta 993$ 販売単価の上昇 $+1,391$ 為替(円高) $\Delta 47$ その他 $+26$
売上原価	4,980	4,133	$\Delta 847$	$\Delta 17.0\%$	原油売上原価: 2,999 (増減) $\Delta 587$ 天然ガス売上原価(注): 996 (増減) $\Delta 265$ (注)LPGを含む。
売上総利益	4,356	5,580	1,224	28.1%	
探鉱費	13	116	103	-	
販売費及び一般管理費	769	721	$\Delta 48$	$\Delta 6.3\%$	
営業利益	3,573	4,742	1,169	32.7%	
営業外収益	552	709	156	28.3%	主な要因 持分法による投資利益 (増減+241)
営業外費用	253	259	5	2.2%	
経常利益	3,872	5,192	1,320	34.1%	主な要因 支払利息 (増減+102) 為替差損 (増減 $\Delta 104$ )
特別損失(減損損失)	799	252	$\Delta 547$	$\Delta 68.4\%$	
法人税等合計	3,093	3,972	878	28.4%	
非支配株主に帰属する純損益	$\Delta 424$	6	431	-	
親会社株主に帰属する純利益	403	961	557	138.1%	主な要因 カナダ シェールガスプロジェクト (増減 $\Delta 666$ )

# 2019年3月期 純利益 増減要因分析



\*生産物回収勘定引当金繰入額(戻入益)及び探鉱事業引当金繰入額

# 貸借対照表

**INPEX**

(億円)	18年3月期末	19年3月期末	増減	増減率
流動資産	4,663	4,577	△ 86	△ 1.9%
有形固定資産	20,446	22,789	2,343	11.5%
無形固定資産	5,415	5,202	△ 212	△ 3.9%
生産物回収勘定	5,890	5,680	△ 210	△ 3.6%
その他	6,924	10,385	3,461	50.0%
生産物回収勘定引当金	△ 816	△ 700	116	△ 14.2%
<b>資産合計</b>	<b>42,523</b>	<b>47,935</b>	<b>5,411</b>	<b>12.7%</b>
流動負債	3,054	3,720	665	21.8%
固定負債	7,880	11,639	3,758	47.7%
純資産	31,588	32,575	987	3.1%
(うち非支配株主持分)	2,421	2,511	89	3.7%
<b>負債・純資産合計</b>	<b>42,523</b>	<b>47,935</b>	<b>5,411</b>	<b>12.7%</b>
1株当たり純資産額 (円)	1,997.24	2,058.95	61.71	3.1%

イクシス下流事業会社(持分法適用)の要約財務情報(100%ベース、内当社株式比率は66.245%)

・流動資産	1,401億円
・固定資産	3兆7,896億円
・総資産	3兆9,298億円

※固定資産にはFID前投資、借入金の支払利息分等が含まれる

株主資本合計 +696億円

その他の包括利益累計額+201億円

・その他有価証券評価差額金	△73億円
・繰延ヘッジ損益	△193億円
・為替換算調整勘定	+469億円

# キャッシュ・フロー

(億円)	18年3月期	19年3月期	増減	増減率
税金等調整前当期純利益	3,072	4,940	1,867	60.8%
減価償却費	928	1,068	140	15.2%
減損損失	799	252	△ 547	△ 68.4%
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	534	331	△ 203	△ 38.0%
生産物回収勘定(非資本支出)の増減額(△は増加)	96	46	△ 49	△ 51.8%
法人税等の支払額	△ 3,292	△ 3,880	△ 588	17.9%
その他	646	△ 372	△ 1,019	-
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,785</b>	<b>2,385</b>	<b>△ 399</b>	<b>△ 14.4%</b>
定期預金の預入による支出/払戻による収入	3,339	0	△ 3,339	△ 100.0%
有形固定資産の取得による支出	△ 2,713	△ 2,107	605	△ 22.3%
投資有価証券の取得による支出	△ 1,277	△ 1,047	230	△ 18.0%
生産物回収勘定(資本支出)の支出	△ 241	△ 316	△ 74	31.1%
長期貸付けによる支出/回収による収入	△ 1,722	△ 2,624	△ 901	52.3%
権益取得による支出	△ 1,009	△ 1,078	△ 69	6.9%
その他	105	353	247	234.1%
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 3,519</b>	<b>△ 6,820</b>	<b>△ 3,300</b>	<b>93.8%</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>347</b>	<b>4,051</b>	<b>3,704</b>	<b>-</b>
現金及び現金同等物の期末残高	2,760	2,396	△ 364	△ 13.2%

---

**2019年12月期(9ヶ月決算)業績予想**

---

**取締役**

**専務執行役員**

**財務・経理本部長 村山昌博**

# 2019年12月期(9ヶ月決算) 連結業績予想 **INPEX**

前提	上期(4-9月)	下期(10-12月)	通期
Brent 油価(\$/bbl)	65.0	65.0	65.0
為替レート(円/US\$)	110.0	110.0	110.0

通期	2019年3月期 (実績)		2019年3月期 (調整後実績※)	2019年12月期 (予想)	増減	増減率
売上高 (億円)	9,713	➔	8,001	9,580	1,579	19.7%
営業利益 (億円)	4,742		4,136	4,420	284	6.9%
経常利益 (億円)	5,192		4,456	4,300	△156	△3.5%
親会社株主に帰属する純利益 (億円)	961		523	900	377	72.1%

## 第2四半期累計

売上高 (億円)	4,382	➔	4,382	5,490	1,108	25.3%
営業利益 (億円)	2,264		2,264	2,440	176	7.8%
経常利益 (億円)	2,469		2,469	2,280	△189	△7.7%
親会社株主に帰属する純利益 (億円)	340		340	440	100	29.3%

1株当たり配当金(円)	第2四半期末	9.0	12.0
	期末	15.0	12.0
	年間	24.0	24.0

26 ※2019年度(2019年12月期)は変則決算のため、2018年度(2019年3月期)を同一期間(9ヶ月)に調整(一部子会社は12ヶ月ベース)、詳細は参考データ集P.1ご参照。  
2019年12月期の配当基準日は、中間配当が2019年9月末、期末配当が2019年12月末。

# 2019年12月期(9ヶ月決算) 販売量・投資額(予想) **INPEX**

		2019年3月期 (実績)		2019年3月期 (調整後実績※)	2019年12月期 (予想)	増減	増減率
販売量	原油 (千bbl) <sup>1</sup>	100,503	➔	85,138	102,695	17,557	20.6%
	天然ガス (百万cf) <sup>2</sup>	232,851		157,925	366,752	208,827	132.2%
	うち海外分	151,921		100,828	307,425	206,597	204.9%
	うち国内分	80,930 (2,168百万m <sup>3</sup> )		57,097 (1,529百万m <sup>3</sup> )	59,327 (1,589百万m <sup>3</sup> )	2,230 (59百万m <sup>3</sup> )	3.9%
	LPG (千bbl) <sup>3</sup>	204		203	435	232	114.3%

		2019年3月期 (実績)		2019年3月期 (調整後実績※)	2019年12月期 (予想)	増減	増減率
開発投資額等 <sup>4</sup> (億円)		4,710	➔	3,706	2,630	△1,076	△29.0%
探鉱投資額 (億円)		137		64	180	116	181.3%
その他 (億円)		37		26	40	14	53.8%
探鉱費および 探鉱関連引当額 <sup>5</sup> (億円)		探鉱費 116 探鉱関連引当額 16 133		探鉱費 35 探鉱関連引当額 28 63	探鉱費 137 探鉱関連引当額 56 193	130	206.3%
うち非支配株主持分負担額 <sup>6</sup> (億円)		18		15	53	38	253.3%

- 注) 1 国内原油および石油製品販売量の換算係数として1kl=6.29bblを使用  
 2 国内天然ガス販売量の換算係数として1m<sup>3</sup>=37.32cfを使用  
 3 国内LPG販売量の換算係数として1トン=10.5bblを使用  
 4 開発投資額にはイクシス下流事業、権益取得支出を含む  
 5 損益計算書の生産物回収勘定引当金繰入額+探鉱事業引当金繰入額のうち探鉱関連分  
 6 非支配株主による増資見合い分等

# 原油価格・為替レートのセンシティブリティ

## ■ 油価・為替変動の2019年12月期(9ヵ月決算) 親会社株主に帰属する当期純利益に与える影響額(注1)

油価1ドル上昇(下落)した場合(注2)	期初時点: +38億円(△38億円) 以下の通り、期中に変化します。 第2四半期期初時点: +19億円(△19億円) 第3四半期期初時点: +7億円(△7億円)
為替(円/US\$)1円 円安(円高)になった場合(注3)	+18億円(△18億円)

(注1) 原油価格(Brent)の期中平均価格が1ドル上昇(下落)した場合、為替が1円円安(円高)になった場合の、期初(2019年4月)時点における2019年12月期(9ヵ月決算)の当期純利益に対する影響額を試算したものです。当年度期初時点における財務状況を基に試算したものであり、あくまでも参考値であること、また影響額は、生産量、投資額、コスト回収額などの変動により変わる可能性があり、加えて油価及び為替の水準により、常に同じ影響額になるとは限らない点にご留意ください。

(注2) 油価変動が当期純利益に与える影響であり、原油価格(Brent)の期中平均価格の影響を受けます。尚、各四半期期初時点において、販売価格の一部は確定済のため、当該販売価格の確定割合を考慮し、下記の通り、センシティブリティの四半期内訳を、試算しております。

- ✓ 第1四半期期初時点: +38億円 (第1四半期: +7億円、第2四半期: +12億円、第3四半期: +19億円)
- ✓ 第2四半期期初時点: +19億円 (第1四半期: — — —、第2四半期: +7億円、第3四半期: +12億円)
- ✓ 第3四半期期初時点: +7億円 (第1四半期: — — —、第2四半期: — — —、第3四半期: +7億円)

(注3) 為替変動が当期純利益に与える影響であり、期中平均為替レートの影響を受けます。尚、外貨建て資産と外貨建て負債の差から発生する為替評価損益に係るセンシティブリティ(前期末と当期末の期末為替レートの差の影響を受ける)は、ほぼ中立化しております。